

当会が初めて「海外からの寄付」を経験

英国ダラム大学東洋美術館 館長様より多額の寄付をいただきました

イギリス・ダラム大学東洋美術館 館長のクレイグ バークレイ様 (Mr. Craig Peter Barclay) より、当会に多額の寄付をいただきました。

去る平成 22 年 10 月、UK ドメインのメールが届きました。それは、「当会に寄付を行う用意がある」という内容のものでしたが、当会の職員としても初めての経験であり、「海外からの寄付など信じられない」と半信半疑で返信を差し上げたのが始まりでした。

何通かメールのやり取りを行い、同年 11 月 12 日、実際に口座へのお振り込みを確認したところです。

この寄付に対し、当会会長よりバークレイ様に感謝状および有功章を贈呈しました。クレイグバークレイ様、ありがとうございました。



英国ダラム大学東洋美術館 館長
クレイグ バークレイ様

「全国大会」を開催しよう！

NPO 秋田県水難救済会との交流の経験から提言

北海道漁船海難防止・水難救済センターでは、平成 21 年 7 月 10 日に秋田県岩館漁港で開催された NPO 秋田県水難救済会の海難救助訓練大会に参画し、交流を図りました。

北海道でも救難所員の技術の向上と漁船海難の未然防止のため、全道大会を毎年開催しています。昭和 49 年から実施している訓練も昨年で 36 回になりますが、果たして北海道と他県では訓練内容等にどのような違いがあるのかなどを研鑽し、今後の訓練内容等に役立てようという思いから、このたび参画させていただいたものです。

当日はあいにくの雨模様ではありましたが、救難技術競技など所員約 250 名が日ごろの訓練成果をいかに発揮し、キビキビと統制の取れた訓練を展開さ

れている様子を見学させていただきました。

今回の経験は当センターにとって、今後の全道大会開催に向けた大きな参考になるとともに、他県の水難救済会との交流について、とても意義深いものが得られた機会であると感じております。

この経験から、北海道独自の訓練大会も必要ではありますが、普段研鑽している救難所員の技術等をその地域だけで眠らせておくのではなく、地方水難救済会同士の交流の場（全国大会）を設けていただくと、所員の意識の向上を図れるとともに全国民に向けた水難救済活動の PR も実現するのではないかと考えます。ぜひとも全国大会の開催を検討していただければうれしく思います。

投稿：(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター



I N F O R M A T I O N

●助成金を受けて行う事業には助成団体を明示

本会および地方組織が行う事業には、日本財団をはじめとする団体から助成金等の交付を受けて実施しているものがあります。ご承知のことと思いますが、海難救助訓練などがこれに当たります。

従って、看板や訓練資料、機材などを購入あるいは作成するに当たっては、これら助成金を受けている団体名を必ず表記するよう、改めてお願いします。

●日本水難救済会会員募集

日本水難救済会では、会員(2号正会員または賛助会員)となって本会の事業を支援していただける方々を募集しています。

2号正会員資格は、本会の事業目的に賛同して、年会費1口1万円(1口以上)を納付された方で、会員になりますと、総会に出席することにより当会事業に参画できます。

賛助会員は、金品を寄付することにより本会の事業に貢献いただくもので、寄付された方は、法人税・所得税の控除を受けられる特典があります。

希望される方は、当会にご連絡いただければ、入会申込書をお送りいたしますので、必要事項を記入してお申し込み下さい。

編集後記

☆全国の地方水難救済会、救難所・支所の皆様、新年明けましておめでとうございます。『マリンスキュージャーナル』を、本年もよろしく申し上げます。

☆マリンスキュー紀行では社団法人 琉球水難救済会のオクマ救難所・国頭救難所取材させていただきました。また、今号の歴史探訪シリーズについても、前号に引き続き琴陵泰裕様に執筆いただきました。ご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

☆社団法人 北海道漁船海難防止・水難救済センターより、NPO 秋田県水難救済会との交流について寄稿いただきました。全国大会についてもご意見を寄せていただきましたが、救難所員の意識の向上や活動のPRに意義があると思われますので、ぜひ検討していきたいと考えています。

☆皆様の投稿等をお待ちしております。なお、マリンスキュー紀行の取材希望がありましたらご連絡をお願いします。取材は6～7月となる見込みです。

(常務理事 上岡)